



1996(平成8) 本校を南側上空より望む

終戦の翌年、昭和二十一年四月に旧制中学の最後の生徒として入学した私は、生まれも小学校も地元出身という事と現在も武蔵関駅近くに住んでいることから、変わりゆく石神井高校周辺の変化は熟知している積もりです。

合計すれば、中学生として三年、高校生として三年、PTAを昭和五十七年三月に終える迄、実に九年母校に在籍した事になります。

母校の石神井中学校が出来た頃、石神井生誰も在校中に一度は訪れる武蔵関公園ですが、ボート池の中州に動物園があった事をご存知の方は少ないだろうと思います。猿、孔雀、鶴、あひる等、池には鮎、蛙、ざりがに、どじょう、鰻の類までが棲んでいたものです。そんな長閑な農村だった母校周辺も、戦争の傷は相当なものでした。というのは近くに中島飛行機製作所(学校から南西方向三キロ)がありB二九はそれを目掛けて容赦なく爆弾を落としていったからです。流れ弾が、軍の協力工場に学校が見えたのか、校舎西側にあった母校の講堂も焼

夷弾により焼失しました。講堂の焼失だけで済んだのは、今の同窓会長のお父さん、井口喜代太郎さん達の必死の消火活動のお陰です。延焼を免れたお話は石神井高校の歴史を語る時、美談として語りつがれてきました。焼失した跡地は基礎コンクリートがそのまま残った狭い空地で、さつま芋を僕ら生徒が作り食料不足を補ったのです。何せ、武蔵関駅から学校の通学路にある食堂は駅前に嵯峨さんの経営するDPを兼ねたラーメン屋さんが一軒あるのみでした。一杯三十円のラーメンは旨かった。今の喫茶店「白鳥」の前身です。

PTAに携わって実感した事ですが、車の普及と共に通学路が日増しに狭くなってきたため、歴代の校長、教頭さん達が都に拡幅の陳情を十数年間続けてきた結果、近年漸く整備されたのはよいことでした。しかし当時、緑化運動を押し進めて来られた国語の星野喬先生(新宿、戸山在住)が植樹された樹木が、道路拡幅により無惨にも伐採されたのは痛ましかったです。

変わりゆくわが武蔵関
福島信雄(高校四回)



石神井高校同窓会紙
「きずな」第47号
平成10年5月発行

Contents

カラー特集

変わりゆく母校の境界

特集

活躍する石神井の女性たち

- ・近況・同期会報告
- ・黒菱山荘関連
- ・卒業生の進路
- ・校歌祭のご案内

その他のお知らせ



1947(昭和22) 米軍による垂直撮影



1955(昭和30) 本校を東側から望む

同窓会のシーズンがやって来ました。

母校に集まれ！今年6/13(土)

はじめまして

校長 外池 武嗣

前校長、栃本忠良先生の後任として、四月一日付けで着任いたしました。同窓会の皆様方、どうぞよろしくお願いいたします。

私は三校の高等学校で社会科地理の教諭として勤めたあと、昭和五十九年に都教育委員会に入り、都立教育研究所や教育庁指導部で教員の研修や様々な教育課題を担当し、四年前からは主任指導主事として同和教育、安全教育などを小学校、中学校も視野に入れながら行政に携わってまいりました。

校長室には歴代の校長先生方の写真が掲げられており、古い順にお見受けすると第七代目の鈴木正三郎先生は、昔、私が高校生(都立隅田川高校)の時の国語の教科担任でしたし、十一代目からの川島誠一、滝澤利夫、齋藤範里の各校長先生とは、教育庁

臆下丹田に力を

同窓会 会長 高橋 勇(中二)

東京の四月は例年になく雨の日が多かったのですが、これもエルニーニョ現象の影響なのでしょう。それに拘わらず、会員各位におかれましてはご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、平成と年号が代わって早くも十年たち、母校を卒業した同窓会員の総数も一九八五名と二人近くの多数となりました。年齢も中一・回は七十を越えてしまいました。そのなかで私が嬉しく思うのは、普段意識していなかったのに、偶然のキッカケや思わぬところで、それまでは他人であった者が「石神井生」といつ目には見えない同窓の「きずな」で結ばれて親近感が生まれ、以後のお付き合いが続いている知らせを受けることがあるときです。

ところで、昨今の世相は、政治、経済、教育、どれをとってもいま一つパツとしないようです。メ

や教育研究所でお世話になった先輩の方々でもあります。お写真を見るにつけ、これまでの業績を引き継ぎながら、石神井高校が発展するよう校長としての



職責の重さに身の引き締まる思いであります。

着任の印象としては、どなたも感じることと思いますが、武蔵野の面影を残す校門付近のヒマラヤ杉、クスノキ、校庭の桜やイチヨウなどの古木に学校の歴史や伝統の重みを感じます。いずれも冬眠からさめて水を吸い上げ、若葉を吹き出しておりま

ディアの急激な発達と増大に伴い、情報開示による「国民の知る権利」は飛躍的に拡大しました。その反面では情報過多による実像と虚像の無差別化や、類似、模倣、横並び意識などの、目先に



見える事象に踊らされてしまつて危惧を感じています。私は敢えて古い言葉を引き合いに出しますが、今こそ「臆下丹田(せいかたんでん)」。下腹部に力を入れて、健康と勇気を引き起こし、メディアに使われることなく、自己の責任と活力をもつてこの不確実な時代を乗り越えていくこと、自分に言いかけせていきます。

同窓会では、各界各方面でご活躍の全会員の皆様へ、前に述べたような「きずな」結びの一助ともなるのが此の会報誌なので、本年は紙面の一部カラー印刷を実施しました。ご感想等を広報担当にお聞か

前任の校長先生とは引き継ぎの中で、本校は自主的、自立的に行動できる生徒の育成をめざしてきたこと、部活動が活発なこと、そして何よりも生徒のために一生懸命な先生が大勢いることなどを話されていきましたが、数日でその感触はつかめたような気がいたします。

自分のモットーとしては、様々なことに興味・関心をみずみずしくもっていたいこと、趣味は運動のために時々、妻と山歩きをし、移りゆく季節を感じ取ったり、四季折々の草木や山草を育てたりして気分転換を図っています。

若い生徒達の声が聞こえる学校は、やはりよいものです。石神井高校のよき伝統を受け継ぎ、学習部活動の充実やその結果として、生徒の進路においても一人一人が目標を達成できるように支援し、同窓会の皆さまからも一層、信頼され期待される学校づくりに努めたいと考えていますので、今後ともよろしくお願いいたします。

せくださると、励みになります。これに関係する大きな課題もあります。それは、本部からは全会員に発送しているのですが、住所変更等で返送されてくる数が多いことです。

このことは同窓会のもつ役割で最大の、正確な「会員名簿」の発行の困難性につながっています。住所変更等によって、本部との絆が一度切れてしまつと、以後連絡不能になることが多いのです。そこで、お願いですが、住所変更等の場合はぜひ本部または各期の幹事さんにご通知ください。二〇〇〇年には新しい全会員名簿を発行する予定です。

また、昨今から広報委員会の方のご尽力で、試験的にインターネットに同窓会のホームページを開設しています。これも「きずな」を結ぶ新たなメディアとして充実を考えています。会員諸氏のご意見等をお聞かせください。

末筆になりましたが、「きずな」のよりどころの母校の発展と、会員各位の益々のご隆盛、ご多幸を祈念いたします。

ありがとうございました

前校長 栃本 忠良

都立石神井高校にお世話になって三年、この三月をもって定年退職いたしました。非力な私としては伝統ある石神井高校に対して、何もお役に立てなかったのではないかと、母校を愛する同窓生の皆様には申し訳なく思っております。しかし、ただひとつ、多くの教職員や生徒・同窓生の皆さんが維持してこられた石神井高校の灯火を消すことなく、次の方々に引き継ぐことができた、今はほっとしております。

この三年間の私の在任期間中の、同窓会の高橋会長、千賀・山荘長を始めとする皆様のご支援とご協力に対して大変幸せに感じていまして同時に、私情ではありますが深く感謝申し上げます。

振り返りますと、私が着任して早々に開催されました体育祭では、この年同窓会より寄贈されました深紅の大優勝旗を、私の手から優勝した団に手渡すことができました。優勝旗のあざざりした重みは、手渡す私にとりまして感激でした。

しかし、毎年大勢の受験生を集めていた石神井高校が、悪夢の年度末を迎えてしまいました。一昨年一次募集で定員割れ



石神井の思い出

阿部勤也(高五回)

今年の末には大学を定年退職する身になって、高校時代を思い出そうとしてみると茫漠としてとりとめがない。すぐに思い出すのは木造の校舎と黒い学生服の友人たち、そしてFの字型の校舎の中央の短いつばりであった外階段の二階から逆さまにつるさされている某君の姿である。私達は授業の合間に持て余していたエネルギーをこのようにして発散させていたのである。

高校時代の生活がどのようなであったかを思い出すことも難しい。埃っぽく、ざわざわした感じは今も多少残っている。高校二年の時に高田馬場にあった高田外語という予備校に英語の授業を受けにいったとき、たしか蒔田栄一という教師が高校とは全く異なった授業をしているのに驚き、彼の皮肉すら新鮮に聞こえたことも思い出す。後に小樽商科大学に赴任したとき、この蒔田氏がかつて商大の教師であったことを知った。

高校時代の唯一の楽しい思い出は、大島への遠足である。晴海埠頭から比較的大きな船で出帆し、途中で船を止めて明け方まで流している間も私たちは眠ることなく、しゃべっていた。当時は「ベッサメ・ムーチョ」という歌が流行っていて、行きも帰りもその歌が流されていた。船の



中の出来事は良く覚えていたのだが、大島で何をしたらそれがさっぱり思い出せない。

高校の授業で思い出すのは石木誠一先生の世界史である。先生の「図解世界史」が出版されたばかりで、それを使っていた。先生は教官の説明のところ、「図説」らしく説明しようとしたのだが、うまくゆかず、赤い顔をして「ばっさりやってみようのだ」といわれたとき、「鐘の鳴る丘」の黒ちゃん役をしていた戸村君が「先生、具体的に説明してください」といったので教室中が大爆笑になった。あのころは先生も純情であった。また英語の授業の時、何かの詩を英訳することにになり、当てられた生徒がトンボの英語が解らず、隣の生徒が鉛筆を示したので、「トンボウ」とやったことがあった。「日本人は誇りを忘れてはならない」という文章の英訳の時も誇りが解らなかった生徒に隣の生徒が「ダスト」と教えたこともあった。

いちばん懐かしいのは繁田邦海先生で、靴から十センチほど上に裾があるスボンで、坊主頭の無骨な先生であったが、熊本の人らしく、授業中にも「田原坂」を良く歌った。私の結婚式の時にも「右手に血刀弓手に手綱」と歌って下さった。最後にお会いしたのは武蔵小金井の駅前であった。そのとき私は大学院生で何かに抗議して駅前でピケを張っていた。そのとき通りがかった先生は「ご苦労さんですね」といって私たちの動きを見ていた。授業の最中にしゃべっている学生がいるとチョークを投げた。それが良く当たったのである。

かえすがえすも残念なのは図書館の焼失である。大学院生の時、私は石神井高校の非常勤講師として英語を受け持っていた。そのとき校舎が全焼し、図書館も焼けてしまった。在校中は図書館委員であったから、図書館の全貌を知っていた。そこには鳩保巴一の「群書類従」からかなり高度な書籍もあった。とりわけ惜しまれるのは当時借

り出した人の名前が書籍の最後に付けられていたカードに記されていたことである。私が一年の時にどのような書籍を借り出したのかがかなりあとまで迎れたのである。卒業の時、後輩の図書館委員から小さな書架を買った。それは今も私の机の上にある。

大学に入学したとき同じ高校の出身者は六人であった。そのうちの一人川口君は大学の柔道部で練習をしているとき、怪我をしてそれがもとで亡くなった。石原慎太郎がかれをモデルにして小説を書いている。最近石神井高校の出身者が少なくなり寂しい想いである。私の高校生活は時代と環境の点で黒井千次の「春の道標」とほぼ重なっている。しかし私の親は判事ではなかったし、私には高校時代にさしたるロマンスもなかった。

当時の中学や高校の生徒は全体として貧しく、自分たちの環境に満足していたわけではなかった。しかし大人になれば少しは良くなるだろうと期待はもっていたのである。私の同級生はあるとき二十年後の同窓会という文章を書いた。それによると会場にポロポロの旧制高校の服を着た男が参考書を読みながら現れる。それはまだ浪人をしている何とか君だ。赤ん坊を抱き、背中にも子供をおんぶした中年女性が現れる。それは高校時代に美人の誉れ高かった何とかさんだ。最後に大きな外車が横付けされ、そこから中年紳士が降り立った。あれは誰だろうと思ったら、私でしたという落ちがついていた。

現在の子供たちは、当時とは比較にならないほど豊かになったが、将来に何の期待ももてなくなっている。それが現在の子供たちの危機の原因である。私たちの高校時代は貧しかったが、日本の民主主義の将来に期待をもつことが出来た。それは幸せだったといふべきであろう。

(一橋大学学長)

阿部学長は、平成九年四月、春の褒章で紫綬褒章を受章されました。

を経験したのです。幸い、二次募集では優秀な生徒を集めることができましたが、やはり最初から志望してくれる生徒を集めるのが本来の姿であります。これをきっかけにして、石神井高校のPR作戦が展開されることになりました。昨年は再び三学区で最も大勢の受験生を集める高校の一つに返り咲きました。

都の財政難で、校舎の改築はしばらく先に延びています。今の日本は、生徒の激減が続いています。都立高校の統廃合がさらに進行すると思われまます。しかし、私は皆様の力を得て、石神井高校がきつと生き延びていけるものと期待しております。創立七十周年の頃には、きつとピカピカの校舎になって、練馬の地にその偉容を誇っていることでしょう。

石神井高校と、その同窓会が永遠に発展を続けていかれますよう祈念して、お礼の言葉とさせていただきます。
写真は、三月三十一日、石神井高校を去られる日のもの。

(高校十五回)

御供 多恵子ソプラノリサイタル

歌はピレネーを越えて

後援 ス페인大使館

日時 一九九八年九月二十三日(水・祝日)

午後一時半開演

会場 三鷹市芸術文化センター(風のホール)

(中央線三鷹駅南口より徒歩十五分)

会費 全自由席三三〇〇円、当日券四〇〇〇円

チケットセゾンにて八月より発売

お問い合わせ

042(995)3146(青木)

曲目 ラ・パロマ、ファルカ、七つの民謡集

より、カタルニャ語の「母の歌」、永遠

の哀歌、などスペイン歌曲の他、ヴィラ・

ロボスのブラジル風、パッパよりアリア、ア

ヴェ・マリア他

石神井同窓生は前売り三〇〇〇円に割引します。

石神井生の昨今

城和裕(高校十二回)

今年の石神井高校の卒業式を拝見する機会を得たのでちょっと一言。

先生方やPTAの皆さん方の心配は最近の都立高校の卒業式が厳肅なムードからほど遠い自己PRの場所になりつつあることで、これは西高を始めレベルの高い高校ほどその傾向は強いそう。



そこで今年、石神井高校では新しい試みとして厳肅な卒業式のすぐ後に、卒業生主体の卒業パーティを企画実行した。新卒業生二百八十八名のほぼ全員が参加して楽しい雰囲気の中、クラス毎のテーブルを囲み一堂に会して、三年間を振り返って卒業の喜びを確かめていた。

先生を中心にお互いに写真を撮りあつたり、体育祭や旅行のVTRを楽しんだり、ゲームにチャレンジしたりして微笑ましかった。羽織袴の正装から振り袖姿の美女達、またダークスーツの男性群、平服の人たち。しかし茶髪が少しいた程度で、それほど目立って変わった服装の集団は見受けられなかった。



化粧した坊主頭の司会者とは!...シュールです。

昔の我々の時代の詰め襟、制服のみの時代から比べると、相当自由な雰囲気とはいえるが現代風で違和感はなく内心ほっとした。

他所の都立高校でもPTA主催の謝恩会が多いが、ホテルなどでやると親たちの衣装合戦になって見栄の張り合いの感があるので、今回のこの試みは主役が卒業生自身と先生なので大いに結構なことだと思った。将来は同窓会としてもメンバーとなる彼らに何かお祝いをしてあげられたらと考えてが如何なものだろうか。

今年の卒業生の担任の先生方を紹介すると、

Dクラス 山下 章先生(保健体育)十九回生
Gクラス 加藤純子先生(保健体育)三十回生

Bクラス 木本恵美子先生(国語)二十九回生
(四月より都立牛込商業高校へ転出)

Fクラス 塚本慎史先生(理科物理)
Aクラス 岩崎秀夫先生(社会)
Cクラス 田島英治先生(英語)
Eクラス 石田 清司先生(数学)
(四月より都立足立高等学校へ転出)

と言いつつ、なんと七名の先生の内三名が同窓生の先生で、また三名の先生がこの四月に他校へ人事異動されるという誠に残念な話なのである。我々の頃は三十年も勤続の名物先生が沢山いたのに……。転出の先生方、長いこと有り難うございました。今後ともお元気で益々のご活躍を祈っております。



加藤純子先生へ花束贈呈

平成十一年は石神井六十周年の前夜祭です。同窓会に結集しましょう!

先生方の異動

本年も人事異動で次の先生方が異動されました。

定年 栃本忠良先生(校長)

中澤正樹先生(音楽)

蒔沢 先生(数学) 嘱託



中澤先生



蒔沢先生

転出された先生方

(カッコ内は教科と在職年数)



藤原清子先生(英語) 鷺宮高へ(12)



佐藤良徳先生(生物) 鷺宮高へ(13)



西宮正喜先生(社会) 杉並高へ(5)



木本恵美子先生(国語) 牛込高へ(11)



相川恵子先生(国語) 第四高へ(11)



加藤純子先生(体育) 竹早高へ(13)



久保博義先生(理科) 西高へ(12)



石田清司先生(数学) 足立高へ(12)



長木喜之先生(事務長) 砂川高へ

転入された先生方



外池武嗣先生(校長) 指導部指導主任から



島田美穂子先生(生物) 清瀬東高から



奥野美智子先生(地理) 田無工業高から



古川進三先生(国語) 明正高から



荻原土信先生(国語) 東村山高から



小沢優子先生(体育) 新採用



森谷良悦先生(化学) 武蔵丘高から



白井賢一先生(音楽) 小笠原母島中から



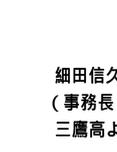
天野恵司先生(数学) 嘱託(竹早高より)



松沢亮先生(数学) 嘱託(井草高より)



越野亮先生(英語) 嘱託(小平高より)



細田信久先生(事務長) 三鷹高より

協動物病院

獣医師 脇利彦(高十八回)

〒177-0053

東京都練馬区関町南一丁目三十一番八

TEL/FAX 03(3928)8063

Email:waki@mx.meshnet.or.jp

統計から見たクラブ活動

前・本校生物科教諭 佐藤良徳

石神井の校風の一つに「さかんなクラブ活動」があげられる。しかし最近では、以前と比べて淋しくなった、放課後が静かになったという声も聞く。部員が数えるほどしかないため、活気がなく盛り上がりがない、人数が少なくチームが組めないというクラブもある。

生徒のレベルが下がっていると、クラブも成り立たなくなると良く言われる。もしかして、本校の生徒もクラブに入らなくなっているのだろうか。毎年発行される本校の「学校要覧」では、様々な統計をまとめているが、クラブの加入者の統計をもとに過去と比較してみよう。

なお、運動部と文化部の他に同好会があるが、同好会は部に昇格することがある。このための活動内容により、運動系・文化系の2つに分けて比較することにする。また統計は毎年五月上旬頃に行われているがそのときに報告された人数で集計している。

一・加入者数の比較

「クラブに入っている生徒」(以後加入者とよぶ)は、十年前には九八六人いたのが、今年は六二二人となり三十四%も減った。文化系では、三一八人から二二七人と六十一%も大きく減っている。しかし、在籍生徒数も一三〇四人から八四八人と三十一%も減少しているのだから、減少したのはやむを得ない。これと比べると、運動系は六六八人から四九五人と減っているものの減少率は二六%と、減り方は緩やかである。

在籍生徒数自体が大きく変わってきているので、在籍数に対する加入者の比率で見ると、文化部の加入率は二四%から一五%へと、九%減少している。しかし、運動部の加入率は五十一%から五十八%と、むしろ増加している。文化部の減少分を運動系の増加でカバーしているようで、加入者率の全体では七十五%から七十二%と、ほとんど変わっていない。これで見ると、多くの人がクラブ活動をしている「傾向は変わっていない」。

二・加入者率の比率

加入者の割合は、学年ごと比べても違いがある。一年生で比べると、文化系では十年前と比較して十%減少しているが、全体では八%増加しており、運動系では十七%も増加している。全学年での変化と比べて、さらに増加が著しい。この数値は、波のように凸凹を繰り返している。なぜか三年ごとくらいに加入者が少なくなる周期があるようで、今年はその少なくなる年のように、昨年は八十八%もの一年生が加入していた。来年は、きっとまた増えることだろう。

以上見てきたが、人数そのものは確かに全体的に少なくなっているが、運動系全体ではむしろ増加し、人数の多い「人気の高いクラブ」もある。

三・加入者の変化の影響

加入者の減少の原因としては、「少子化」が大きい。日本全国で子供の数が減少している。本校でもかつては九学級、一クラス四十八名くらい在籍していたのが、現在は七学級、一クラス四十名くらいと全体でも大きく減ってきている。

これに伴って教員も減ってきている。このため顧問の確保が大変になっている。教員数が減っても仕事は減らない。教員一人あたりの仕事はかえって増えて忙しくなっている。学校の予算の総額も人数が少なくなったため、減らされている。このため各クラブへの予算の配分も厳しくなってきた。しかし、生徒の数が少なくなっているというこ

平成9年度 進路状況について

「サンデー毎日」の集計には載っていませんが、筑波大学と千葉大学に一名ずつ合格、また東京理科大学二名、早稲田大三名、立教大二名の合格もあり、他の各大学も実際の数値はもう少し多めとなっています。進路指導の先生によりますと、進学については底をつち、今後少しずつ上昇する機運にあるとのことです。しかしながら、本年度の都立高校進学案内書によれば、第三学区内での合格予想偏差値は、西六十五、富士と大泉六十一、豊多摩五十八、井草五十六、石神井は杉並、武蔵丘と共に五十二、鷲宮と荻窪が四十八、以下光丘、永福、練馬、大泉北となっており、ちょうど中間で、しかも隣接校の大泉ばかりでなく井草にもかなり水をあげられた状況になっています。

卒業生の進路状況 (井草・大泉との比較)

学校名	石神井	井草	大泉
明治	7	15	31
法政	8	17	30
中央	3	4	25
青学	1	3	11
日大	13	24	36
東洋	6	22	20
駒沢	5	13	12
専修	8	14	12
明学	4	2	8
学習院	2	1	10
成蹊	2	7	25
成城	1	3	5
武蔵	4	13	22
國學院	4	3	5
東海	5	4	5
理大	1	7	12
芝工	1	2	7
武蔵工	1	2	1
電機	6	6	3
駿河	8	14	4
獨協	6	6	13
文教	2		1
国立			8
早稲田		3	4
慶応		1	3
立教		5	25
上智		2	5
合計	98	202	380

新卒業生の進路

	男子	女子	合計
四年制	28	39	67
短大	1	33	34
専門校	20	31	51
公務員	0	0	0
他就職	1	2	3
浪人	96	37	133
合計	146	142	288

とは悪いことばかりではない。全国的に生徒数が減っているから受験の競争が緩和されてきた。以前と比べて、体育施設の改善をはじめ、校内の施設も少しずつ充実してきている。生徒が少なくなると、校内の施設は余裕をもって使えるようになったはずだ。このような点では条件は良くなっている。クラブに入らずに放課後は、学校の外での趣味、遊び、アルバイトに精を出している人もいる。こうしたことも決して価値がないというわけではないが、クラブ活動は在学中しかできない。石神井では昔と同様多くの人がクラブに入っているし、条件も良くなっていることもある。頑張っ

出典：「サンデー毎日」4/19号記事
「全国著名1380校の主要大学合格者数」から



特集 活躍する 石神井の女性たち

近々60周年を迎える石神井高校。社会の第一線で活躍する多くの同窓生がいるが、当然女性の同窓生も活躍しています。いわゆる社会的な地位などという基準ではなく、多様な価値観で活躍される女性同窓生を中心にご紹介してみたいと思い、この特集を企画いたしました。

人との関わりあいの中で

障害者能力開発校での仕事

山崎芳江さん(高六回)

私は公立中学校社会科教員、私立東京女子学院講師を経て、二年前より生活指導相談員として東京障害者能力開発校に勤務しております。本校は小平市にあって、国立・都営の障害者のための職業訓練施設です。授業料は無料で、訓練費の支給を受けながら、障害者が社会で自立をめざす為に、一年間技能の習得に励んでいます。

通校生と無料の付属寮があり、北は北海道から南は沖縄までの生徒が寮で生活しながら学び、年齢も中学校卒業以上六十才までの幅広い層の方々が、電子機器・



フィックアート・アパレル・木材加工・実務など以上の各科に分かれて、学習・技能の習得を目指しています。

相談員は私を含め三人おりますが、そのうちの一人は石神井高校後輩の第十八回生。小林幾子さんで、的確な判断力と行動力で活躍しており、信望を集めております。

私は教員時代より、人との関わり合いの中に身を置いてきましたが、教員と相談員の立場の違いや幅広い年齢層の方々との触れ合いの中でとまどい、自分が話したり、行ったことがそれでよかったのかどうか自問自答の繰り返しです。

生き方(考え方・性格)、家族関係、異性・友人関係、人間関係、病気・障害に関する悩み、校・寮生活のこと、訓練・学業に関することなどの相談がありますが、話を聞くことの大切さを心掛けながら共感したり、助言したり、励ましたり、一緒に考えて考えたりしております。

障害を体験した方々しかわからない苦しみ、悩み、生き方への問いかけ、思いやり、やさしさ、たくましさなどを聞きしていると、教えられ、感動を受けられることが多々あります。

多くの方との出会いや触れ合いを大切に、感謝しながら過ごしていきたいと思っております。

地域医療に貢献

田中和子さん(高十回)

石神井高校の三年間は、立派な先生方と良い先輩、友人達に出会い、とても思われた高校生活でした。当時は偏差値、受験競争とは無縁ののんびりとした時代で、勉強、運動、クラブ活動、友人との語らいなど、本当に楽しい青春時代でした。

親が高校に行けと、高校くらい出ないなければという気持ちで入って来る人は稀で、自分の意志で、勉強したい人が入学して来ました。現在問題になっていくわゆる「いじめ」などは全くなく、上級生もクラスメイトも皆親切で、毎日学校

に行くのが楽しく、無遅刻、無欠席で三年間を過ごしました。

一年組組長谷桃彦先生のクラスでした。秋の体育祭の仮装行列に、私達のクラスが優勝しました。当時エリザベス女王の妹姫のマーガレット王女とタウンゼント大佐との恋のいくえが世間を賑わしていました。「結婚おめでとうございませう」というテーマで準備を始めました。マーガレット王女は栗原さん、タウンゼント大佐は田島君、侍女に三原さん、朝倉さん、井口さんその他数名、女子で背の高い中下さん、私と男子十数名が侍従と近衛兵に扮しました(この時の写真が手元になるので、もし記憶違いでしたらごめんなさい)。タウンゼント大佐の正装はたしか小森君の家からお借りしたと思うのですが、マーガレット姫、侍女やその他の衣装は放課後にクラス全員で協力して、作成に約一ヶ月を費やしました。近衛兵の帽子は竹ひごと新聞紙で外側に半紙を張り墨汁を塗りました。ところが体育祭の三日前に、エリザベス女王とイギリス正教会の反対で御成婚は成らず、姫は「タウンゼント大佐をあきらめます」との声明を出されました。狩谷先生のアドバイスで急遽「二人に幸あれ」とテーマを変えました。マーガレット姫に世間の同情が集まったという話題性もさることながら、クラス全員の協力で素晴らしい出来映えであったことが優勝の要因になったと思います。

フォークダンスにも楽しい思い出があります。昼休み、放課後に放送部が音楽を流し、校庭でフォークダンスが行われました。わたしのひそかにあこがれていたF先輩と話したり踊るのを期待して、よく参加しました。

在校中はほとんど受験勉強をしなかったため、二年間の予備校生活を体験しました。縁あって三重県立大学(現国立三重大学)医学部に入り、卒業後は勤務医を経て、昭和六十二年から保谷市にて小医院を開業し今日に至っています。

変お世話になりました。将来の進路や家庭内の問題で悩んでいる時に、先生の適切な助言と励ましで立ち直ることが出来ました。

現在医師としてささやかではありますが、地域医療に貢献できるのは、石神井高校に於いては素晴らしい恩師、先輩、友人達との出会いがあったからだと言っても過言ではありません。

石神井高校に入ったことを誇りに思い、この気持ちは卒業して四十年たった今でも変わっていません。

ベテランナレーターとして活躍

長谷由子さん(高二十回)

長谷さんは、高校二十回生。東洋大を卒業後、局アナを経て七十年代に放送タレントとして活動した。現在は、主としてテレビやラジオ、ビデオパッケージなどのナレーターとして活躍中。

現在のお仕事についてお伺いします。

テレビ番組やビデオなどで、ナレーションを担当する仕事ですが、いわゆるアナウンサーとは違って、もう少しタレント的な要素がありますね。

テレビ番組のレポーターもやっています。今は、主として企業PRのビデオのお仕事が多いのですが、いろいろな教材ビデオ、コンピュータのマニュアルビデオなんかもやっています。

若い頃は、一時「俳協」という劇団に所属していた女優として活動したこともありましたが、だんだんとナレーションがメインになりました。現在は、プロダクションの養成所で講師もしています。



いろいろな活動経験をお持ちですが、ベテランと呼ばれることについてはいかがですか？

いろいろな仕事をしてきました。あつという間に、二十五年くらいのキャリアになってしまいいましたね(笑)。

最近は少し自分のわがままをさせていただけのように思ってきたので、納得できる仕事をしたと思うようになってきました。

十年くらいまえの「パブル」が華やかだった頃は、それは忙しかったです。景気がよかったです。はたらく、企業PRビデオのブームだったせいもあって、一日に三本も四本も仕事が入ることが珍しくなりました。今はそうだったビデオは制作される本数も激減しました。

また若い子たちがたくさん入ってきていますから、私自身の仕事も量は少なくなっています。ね。もちろん、歳相応に落ち着いた声が必要とする仕事もありますけれど、それに私を指名してくださる仕事もあります。仕事は大切にしたいと思っています。

「趣味も楽しんでおられるそうですが、ええ。今ダイビングにはまっています。といって、もう二十年ぐらいになりますけれど(笑)。私の名刺の裏は、自分のダイビング姿です。

潜るだけでも楽しいのですが、最近は水中写真にかなり凝っているんですよ。ちょっと前に、水中写真とエッセイのある雑誌に連載していたくらいの人込みようなんです。普通は、水中カメラというところ、二ノコンというカメラが一般的なんです。私は通常の二ノコンの一眼レフを、ウォーターハウジングに入れて使っています。私の技術の問題かも知れませんが、このシステムの方が撮れる写真がクリアなんです。全自動のカメラの方が、ラクです(笑)。今はモルジブに通っています。ゴールデンウィークもずつとむこうです。ちょうど今、持っていくフィルムと電池を仕入れてきたところなんです(笑)。

最後に、お仕事に対するポリシーのよつなものが、ありましたか……

アナウンスの講師として後輩の指導もしていますが、自分自身も現役として活動し続けたいと思っています。「良い仕事をなるべく長く続けること」これが今のポリシーですね。(聞き手:板谷)

ローマを拠点に

歌手活動を続けている

野田理恵子さん(高二十七回)

イタリアを中心に活躍している歌手の野田さんに、「活躍する石神井の女性」というテーマで自身の紹介をお願いしたところ、お手紙をお寄せいただきました。

ローマでのお花見

ローマには、エウル公園の池の両側に、「日本の散歩道」という通りがあって、今、桜が満開です。桜は何処も同じで、はかなく美しいものです。お花見をしている老人や幼児、子供は、どの国でも同じです。どという立場の人にも、個の尊敬を感じ、異なる文化を冷静に見つめたいと思います。お花見と言えば、芸大に通っていた頃、上野公園の桜は美に素晴らしかった……。

ローマでお花見をしていると、運命というものを感ずる感じがします。エディプス・コンプレックスのように、それから逃げるのではなく、今を、この瞬間を有意義に信じて豊かに生きたい。でも「運命」というものは、また、自分で作り出していくものだと確信しています。時間をゆつたりとかけて、何かを作り出すのです。

縁側について

私はイタリアに、日本の庭園、海や島などを表す石庭を造ってみたいのです。ヨーロッパの家には縁側というものがありません。家の中と外の中間的存在で、ユニークなものです。縁側にいると自然に溶け込んで行く感じが、生まれたままの自分に返るといふのか、そのやさしさに触れると、音楽が聞こえてきて



聞かされて、

私は思わず歌っているようです。縁側の延長ではないけれど、キャンピングカーで、自然と一体になって、日本全国縦断コンサートなどを計画したりしています。日本各地の小さな町の人々と語り合い、その美しさや特産物などを味わいたいと思っています。これは本当に最高の楽しみです。

浅利慶太先生のこと

舞台の上で歌っていると、自分が裸でいると感じられる事がよくあるのです。大学時代に劇団四季で研究生をしていた時に、私の恩師、浅利慶太さんが「裸だと感じられるくらいに自分を表現しなければいけない。」というような事を言っておられたのを思い出します。浅利先生とは、その後ミラノのカラ座研修所で、私が勉強していた頃スカラ座で「蝶々夫人」の演出をされた時に再会しました。またゆつくりお話がしたいです。

私は、いつも歌いながら、旅をし、感動し、恋をし、苦しみ、なぐさめられ、疲れ果て、愛し、喜び、叫んで、成長し、何度が死に至ったりしているのです。それを、どれだけ素直に感じられるか。どれだけ自分に素直になれるか。人に言われた事をどれだけ素直に受け入れることができるか。課題です。

夫・家族のこと

ピアノストの夫は、私のために、オペラに歌曲にと没頭していき、世界各地での私のリサイタルの良き理解者として、いつも私を支えてくれるのです。私がくじけそうになる時に、「君は歌うために生まれてきたのだから頑張れ!」とハッパをかけてくれます。彼は作曲家であり、オペラや歌曲も書いていますが、指揮者としても才能を発揮しています。毎日の私の生活は、彼の批評で始まり、彼の批評で終わります。でも、それが私の幸運だと思っています。夫は、私の姿を映し出してくれる鏡なのです。数日後にリサイタルを控えあわただしい毎日ですが、彼のイタリア人の両親が私たちをしつかり支えてくれています。社会の最小単位である家族というものが、私の姿を映し出す鏡なのです。それはまるで魔法の鏡のようです。

日本で歌いたい、優しさ

今まで外国ではばかり歌って来ましたが、何人かの日本の方々から「日本でも歌って」と良く言われます。日本語の素晴らしい歌曲などを歌いたいという欲求を隠すことができません。外国各地の小さな町でのコンサートとか、大きな劇場で蝶々夫人を歌う時とか、古い懐かしい歌曲などを歌うリサイタルでも、最前列のある老人が幸せそうに、私の歌を聴きながら涙を流していたり、可愛い子供達が驚きに目を見はったり、幸せな人々が苦しみにも同感したり涙を流したり、疲れた人々が私の歌を聞いて少しでもその疲れが和らげられたりして、また明日も頑張ろうとその瞳が輝く時、私は幸せなのです。私は、歌った後、皆で話をするのが好きなのです。その人の話を伺って、どんな事を私の歌に感じたかとか、夜中まで美酒を味わいながら話して花が咲くのです。これはもうやめられません。歌には国境がありません。真のやさしさに触れる感じがするのです。本当のやさしさとは何かをいつも考えます。人々に対していつも真に優しい人間で、また自然に対しても真にやさしい人間で、しかし環境に対しては常にきびしい人間でありたいいつも考えております。

Zucchi, Rieko (ROMA 6.4.1998)

野田 理恵子さんのプロフィール

昭和三十一年生まれ、東京芸術大学音楽科卒。大学在学中に劇団四季研究所で研鑽を積み、ミラノ・スカラ座研修所終了後、イタリア・ルッカのブッチーニ国際コンクールで一位なしの二位、シエナのバステラーニ国際コンクールで二位、レッツェエのテイト・スキーパ国際コンクールで一位なしの二位他、入賞多数。スペイン・バルセロナのフランシスコ・ヴァーニャス国際コンクールのマダム・パタフライ部門で優勝。スペインでパタフライ役でデビューし好評を博す。以来、世界各地で活躍。日本歌曲、イタリア歌曲、ドイツ歌曲、フランス歌曲、スペイン歌曲、ロシア歌曲、ジャズなどのリサイタル、またオラトリオ、宗教曲のコンサートも多数。指揮者、歌曲伴奏者、作曲家としても活躍中のイタリア人ピアノストと結婚。三女の母。イタリアのレカナ・ティエド・ベニ・シエラの生誕百年記念のコンサート、日本でオペラと歌曲のリサイタルなどが今夏のプログラムとして組まれて、二枚目のCD発売予定。詳細はパツパ協会音楽事務所まで。

芸能プロダクションで

自分の夢を再生産

日高由紀子さん(高二十一回)

日高さんは、石神井を卒業後、成蹊大学文学部日本文学科へ。在学中からジャズボーカルのマーサ三宅氏に師事し、歌い手として活動した。大学卒業後は生命保険会社アリコジャパンへ就職。やがて明治生命に移るなど、生命保険の営業畑を歩んだ。平成九年、明治生命新浦安営業所の支部長職を最後に退職し、株式会社ワコープロダクションを設立。音楽プロダクションの経営という新しい道を歩き始めた。

生命保険の営業からプロダクションを設立されたあたりの「きずな」を：

簡単な言い方ですけれど、やっぱり「音楽」に携わる仕事をするのが夢でした。学生時代から歌の世界を目指して来たのですけれど、自分自身が歌い手として活躍するチャンスには恵まれませんでした。それで音楽を離れたビジネスの世界に進みました。もちろんそれなりの苦労もありました。が、営業の経験もそれはそれで充実していたと思います。ただ、音楽ビジネスへの想いはずっと持ち続けていました。数年前に出資など援助してくれる方が現れたのをチャンスに、現在のプロダクションを設立したわけです。

日高さんへ自身も歌手として活動されるのですか？

あと十歳若かったらやっていたでしょうね(笑)。自分自身で歌うわけではないのですが、ひとりの歌手を世に送り出して、より多くの人達に歌を聞いていただいで、ビジネスとしても成り立たせるといのは、充分に創造的な仕事だと思っております。自分がかつて抱いていた夢を、現実化させていく役割を受け持つことなのでしょうね。

今売り出しているのは演歌の歌手なのですが、一回りくらいは歳も離れていないので、「一緒にがんばろう」という感じですか。他人のお世話をしている、という感覚はありません。自分自身が

全力でがんばっている、といった感じですが。正直なところ、私もずっとこの世界に生きてきた訳ではなく、いわば素人なんです。毎日毎日が勉強の連続ですね。きついことはきついけれど、すごくエキサイティングな仕事ですね。

これからの目標などをお聞かせいただけますか？
いまのところはとも将来のことを考えるどころじゃありません。一日一日が精一杯という感じですよ。

この世界ではまだ若手ですが、私も四十の舞台に乗りました。こんなことって、歳を隠しようがないしその必要もないのが、同窓会誌のいいところですよ(笑)。

それで最近感じるのですが、若いときにはわからない仕事の楽しさが、段々わかってくるような気がしているんです。女性は、若いときはそれなりにチャホヤされて楽しい時期があると思います。が、それはそれだけのことじゃないでしょうか。

「私がやる」といった責任ある仕事をするのは、なかなか大変です。多くの先輩方に向かって、僥倖な言い方だとは思いますが、女だてらと言われても、私が手がけて、なんとかしてやろう」といいう意気込みを持つのは、とても快感なんです。

「おもしろいのは三十半ばから」とよくいいますが、特に働く女性にとってはそうなのではないでしょうか。少なくとも、私はそんな気がしています。

カラオケ業界誌に、「若くて美しい女性社長」として紹介されていますね？



あなたに届けたい、艶やかに、ひそやかに
最後の我が俣(わがまま)

幡 千恵子



株式会社
ワコープロダクション
代表取締役
日高 由紀子
03(5687)1411

見えない養育誌のお世辞であつてもそれがなにかの飾りになつてうちの歌手の知名度が上がるのなら全然いいわれても構いません。ヒエロだつてやりますよ(笑)。それくらい今は仕事、仕事です。以前ならば、女性社長なんて扱いはされること自体抵抗あつたでしょうね。今はともかく、コロムビアレコード専属の幡千恵子最後の我が俣(わがまま)良い曲です。ぜひよろしくお願ひします！
(聞き手：板谷)

私は女優一年生、「日置ゆき」です。

日置由紀子さん(高五十回)

私は今春、都立石神井高校を五十期生として卒業しました。現在、TVやCM、雑誌などの仕事を楽しんで頑張っています。石神井高校在学中、私は女子柔道部部长として活動してきました。そして三年間を通して、顧問の久永哲雄先生や大月正先生、OBやOGの方々、友人・後輩から、忍耐力や根性、協力しあつたことの大切さ、そして一つのことをやり遂げた時の満足感や感動など、とても多くのことを学ぶことができました。そしてその事を誇りに思つて、自信を持っていま、仕事に取り組んでいます。きっとこれからも沢山の壁にぶつかると思いますが、高校生活の三年間を生かして、乗り越えていきたいと思つています。これからもいろいろな事に石神井の誇りをもって、全力で挑戦していきたいと思つています。先輩方も応援し

パンの店
リスドオル ミツ
JR中央線西荻窪駅南口歩2分
03-3332-9683(代)
製パン一級技能士
廣瀬満雄(高21回)

てください！ よろしくお願ひします。

(柔道部で活躍していた子が、卒業後女優の道に進みました！ ぜひ紹介して)と加藤純子先生から熱烈な紹介をいただきました。ロケの仕込み最中に取材をお願いしたので、直接お会いできず、ロケ先からお手紙をお願いすることになりました。かわいいお手紙をありがと。がんばってくださいね。)



青木慶子先生をお訪ねして

母校石神井高校に初めて女性の教員として採用され、長年体育の教師として活躍された青木慶子先生にいろいろとお話を伺いました。

お会いする約束の日はあいにくの雨模様。待ち合わせ場所は武蔵関の駅前あの懐かしき「白鳥」です。卒業以来三十年の年月を越えての再会!。「わかるかな?」と内心、心配しながら先生を待ちました。お店のドアが開くたびに、立ち上ってドキドキの連続。そして何度目かドアが開いたとき、私はすぐ先生とわかりました。三十年も経っているのに「あっ先生だ」と、またたくまにあの頃の自分にタイムスリップしてしまいました。まずは、なによりお元気でいらっしやることにびびり。七十四才とおっしゃっていました。が、とても素敵で若々しくおきれいで、あの頃の少しだけ恐れ青木先生のイメージはなくて、やさしい笑顔でたくさんのお話を下さいました。



まずは簡単な経歴からお聞かせ下さい
滋賀県彦根市で五年ほど教師をして、結婚を機に東京へ来ました。私の師であるお茶の水女子大学の戸倉教授のお勧めで都の試験を受けました。都立立川高校へ話を聴きに行ったところ、立川高校では女性を探らなくて、次に行ったのが石神井でした。私は既婚者でしたから、採ってくださいます。生徒は男子のみ、教師も男性ばかりでした。ちょうど卒業女性第一

期が二年生の時だったと思います。私より三ヶ月前に黒川先生が唯一人講師として着任されていらっしやいました。

(編集部注:記録によれば、青木先生の在職期間は昭和二十六年六月から昭和六十年三月まで、三十四年間にわたり、黒川和代先生(故人)は昭和二十六年二月から昭和四十五年三月となっていました。)

今年の「きずな」では、特集として「石神井の女性」というテーマになっていますので、そのあたりを伺いたいとおもいます。「先生」という職業を振り返られていかがですか?

そうですね。女性の職業としてとり早く良い職業であると思います。春・夏・冬とお休みがありますしね。私の場合は、自宅が学校に近かったから何もなければ早めに、明るいうちに帰宅しました。一応きまりでは、午後五時までいなくてはいけないのですが、もちろん学校の仕事を家に持って帰って、家事を片付けてからやっていました。

立派なお子さんを育てられた訳ですが、

そうですね。子供が小さい時は、背中におんぶして部活を見たり、また女子バスケット部の合宿にも連れていきましたね。だから当時の生徒に会うと、あの時のお子さんは大きくなりました。しょうとよく聞かれます。今は三省堂に勤めていますけれど。

それと修学旅行などの出張の時は、友人に見てもらいました。これはお互いね、そういう助け合いみたいなものがあつたんですよ。また職員会議などで遅くなると、我が家の夕飯のおかずは決まってコロッケ。帰りに肉屋さんで買っていくものです。私の息子が小学生の時の作文でこのコロッケのことを書いたら、担任の先生が「うちの夕飯も同じだよ」と話されたそうです(笑)。子供が熱を出した時には、よく言って聞かせて、

寝ている枕のまわりに、食べ物やお水、おもちゃに本などを全部置いて、学校に出勤しました。

石神井の思い出はたくさんお持ちでしょうが、いくつかをお聞かせください。

もう退職して十年以上経ちました。定年の時、それぐらいの年齢になると、もっといいのに「教育」ができると思いました。そう、六十五才くらいまでは十分できると思います。引き続き講師としてお勤めする方もいらっしゃると思いますが、私は全くやめまして、家にこもり少々体調を崩して病気になるてしまいました。良い思い出のひとつに、先生方の読書会があります。当時の畑山校長、坊城教頭が中心になって、いろんな本を読んで、専門以外のことも勉強しました。当時はずっと「自由だった」と思います。教員も生徒もね。

高校入試制度が、学校群、グループ選択と大きく変わり、一時期は母校精神が少ない生徒が増えた時もありましたし、学園紛争もありました。

当時先生がお持ちになっていたお考えや生徒への接し方はいかがでしたか?

ええ。私の性格はあっさりしているほうだと思えます。過去にとらわれず、前に向かって常に前へ前へと進む。そう思っていました。あとは、態度ある美しさ。態度ですね。キビキビとすること。嫌いなのは、時間を守らないこと。早退は良いが遅刻は嫌いました。

現在の石神井高校にはどんな印象をお持ちでしょうか?

退職して十数年がたち、いまの高校についてどうだ、というようなお話はあまりしないようにしているんですよ。家の近所でも私が石神井高の教師だったということは、ほとんど知らないのではないのでしょうか。

でも、素晴らしいことに、石神井には先生のO

B会があるんですよ。毎年一回ぐらい集まって、ワイワイやるんです。大体、石神井で定年になられた先生が多く出席されます。懐かしいお話などたくさん出て、とても楽しみです。幹事は持ち回りですね!

でも、段々お亡くなりになったとか、お葬式の話が出たりするので、少々寂しくなりますね。

(お話を終えて)

ちょっと寂しそうに先生はお話を締めくくられました。しかし、長い教員生活を、自然な一人の人間として、また女性として肩肘はずらずに続けてこられたのだなあと感じました。また、女性が仕事を続けていく時には、誰でも直面する仕事と家庭のどちらを優先するのかという悩みを、色々な工夫や暖かな友情で、そして周りの方々の協力でも乗り切ってこられたということもあるでしょう。特別なことをしているを意識せず、先生のように自然に人間らしく人生を歩みたいものです。現在日本で一番大切にしなければいけないものは、何も難しいことではなく、人間らしく自然に、ということなのではないのかと、先生とお話していて強く感じました。

聞き手: 勝見鈴代(高二十回)



かねがえ矯正歯科クリニック

歯学博士 鐘ヶ江 晴秀 (高校20回)

〒194-0022 町田市森野1-36-11 ビオレ町田ビル6F
TEL 0427-22-4182

小田急線町田駅東口、北口出口より徒歩1分

同窓会紙「きずな」の編集スタッフ求む!

次の「きずな48号」の編集をボランティアでお手伝いしてくれる同窓生を募集しています。ご希望の方は、03-5216-7346 板谷までご連絡ください。

黒菱山荘へのお誘い

黒菱山荘は、冬季オリンピック長野大会のアルペン競技(滑降系)およびノルディック(ジャンプ)の会場となった白馬村八方尾根に1961年より建っている歴史ある山荘です。以前は学校行事の宿泊施設として用いており、在学中に山荘を訪れた方も多いことと思います。新緑の初夏・牧場の緑も鮮やかな夏・燃えるような紅葉の秋・そして長い銀世界の冬。青春の思い出探しに、新たな自分の発見に、山荘はそんなあなたをお待ちしています。四季折々の中での山荘の生活を満喫してみませんか。



山荘の利用方法

利用については以下のように定めておりますので、理解をお願いいたします。

- 資格** 石神井高校生(ただし保護者の同伴)・PTA会員・同窓会員・教員・その同伴者
- 宿泊費** 同窓会員 学生 1200円 社会人 1400円 会員外200円増し
ただし冬季は暖房費用として200円いただきます
- 期間** 基本的には制限しませんが、山荘に不慣れな方は山荘管理者の入荘期間をお勧めいたします。まず下記受付に連絡してください。
- 申込み** 東京受付(03-5985-7109)佐藤賢二(高26回)へ連絡してください。その際利用者氏名、利用者数、利用期間等必要事項を伝えて下さい。利用費用の振込先など、詳細をお知らせいたします。

山荘の運営

現在山荘は、黒菱山荘委員会により管理運営しております。山荘管理者(主に大学生)は基本的に長期の休業中の一定期間入荘いたします。以前(高校生が利用していた頃)とは異なった管理形態をとっております。山荘では利用者が炊事・掃除・雪下ろし(冬季中)等の山荘内での作業を共同で行います。従って、管理者が入荘している期間であっても、管理者が食事の用意などを行うということはありません。あくまでも共同生活の場であることを認識された上で利用してください。

山荘の保守のために、委員会では、年二・三回の補修、燃料の補充などを行っております。そして、山荘がこれからも永くみなさんに利用していただけるような努力を続けておりますが、高い標高・冬の荒天の中で三十六年もの歳月を乗り越えてきたために、雨漏り等する箇所・老朽化している箇所があります。山荘委員会の仲間達により何とか良い改善策などを模索して山荘を長生きさせるよう工夫をしています。早急に修理しなければならない箇所は多くありますが、山荘の長生きの最大のポイントは、数多くの方に利用していただくことと考えております。昔を思い出しての利用、未知の山荘体験としての利用、石神井の同窓生の利用を心待ちにしております。

山荘委員会委員長
千賀可一 Tel 03-3394-6661 〒167-0035 杉並区今川4-8-1
広報担当
泉水裕二 Tel 03-3385-8996 〒165-0025 中野区沼袋4-35-3

Welcome to Kurobishi!.....♥♥♥♥

山荘へは、ゴールデンウィーク、夏のお盆休み、年末年始、2.3月のスキーシーズンに入荘して、卒業生の方々と楽しく共同生活をしています。皆さまにも、ぜひ足を運んでいただきたいと思っています。

松田慶子 東京農業大学4年(高46回)
今春卒業の、フレッシュ0B・0Gを紹介します。
阿部 敏・東洋大学1年(50回)
福井繪里子・立教大学1年(〃)

オリンピックと黒菱山荘

冬季オリンピックが長野で開かれました。男子アルペン滑降のスタート問題では世界を湧かせてしまいい、八方尾根の名は全国に知られたことと思います。山荘にも、オリンピックの観戦(というよりもその雰囲気味わっていたような?)のための入荘者が多数ありました。天候に左右されやすいアルペン競技は、日程通りに実施できませんでしたが世界のトップスキーヤーの滑りを見ることができました。また、八方尾根スキー場に隣接する白馬ジャンプ競技場では、日本選手団の大活躍により多くのメダルを獲得し、大いに盛り上がりました。



(文責・泉水)

●年中無休 AM10時~PM10時

日帰り温泉 露天風呂

秩父湯元 武甲温泉

☎0494-25-5151

ニッコリ コイコイ

西武秩父線横瀬駅下車徒歩8分

横瀬駅には、西武特急レッドアローが4月から停まります。

懐かしの黒菱山荘をいつまでも

足立(旧姓 寺尾)美智子
(高三十六回)

それは、去年の夏の終わりに一通の八ガキが家に届いたことから始まりまし。石神井高校を卒業してから、早十数年の年月が経っていました。その八ガキは、三十六回生で黒菱山荘に行った事のある人宛の八ガキで、久しぶりに黒菱山荘に行ってみませんか?という内容でした。すぐに、高校生の頃、やはり山荘に魅了されていた友人へ連絡を取り、一緒に出かける事にしました。彼女と連絡を取ったのも、本当に久しぶり。山荘に行くなんて、何年ぶりだったことでしょうか。(こんなにわくわくする事なんて、最近あったかしら?)

ちょうど、山荘に行く頃は、紅葉の季節でした。集まった人数は、全部で十五人程度でしたが、卒業以来の人がほとんどで、本当に懐かしかったです。長野オリンピック効果で、高速道路も伸び、道も良くなり、白馬まで四時間から五時間に到着しました。山道を車で登って行きましたが、冬山しか知らない私にとっては、全く見覚えのない景色でした。でも、あの黄色い屋根が見えてきたとき、何とも言葉では言い表せない思いで、胸がいっぱいになりました。中にはいると、昔、毎年のように行ったスキー教室の思い出に、花が咲きました。トイレ掃除の事、憧れの山荘

OB・OGの事、飯炊きの事、いろんなゲームの事、山の歌の事、等々。昔、各部屋毎に書いていた感想ノートも大切に保管されていて、自分たちが昔書いたものを見つけては、恥ずかしいやら面白いやら



36回生 黒菱同期ツアー

平成10年度 黒菱山荘委員会 年間スケジュール

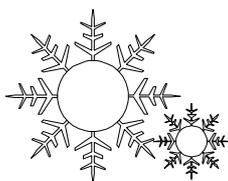
平成10年

- 4月上旬～5月上旬 春の入荘(運営管理)
- 5月17日 黒菱山荘委員会総会&懇親会
- 5月下旬 春の準備会
黒菱山寮協議会
- 6月～7月 父母と教師の会「山荘で星を見る会」
- 7月下旬～8月上旬 高校生を含めた夏山トレッキング(個人参加)
- 8月中旬 夏の入荘(運営開始)
山荘メンテナンス業務
- 9月中旬 石神井高校文化祭出展参加
- 10月下旬 秋の準備会
黒菱山寮協議会
- 12月下旬～翌年1月 冬の入荘(運営管理)

平成11年

- 2月下旬 スキーツアー(一般参加)
- 3月下旬 石神井卒業生を対象にしたスキー教室(3泊4日)

黒菱山荘
 所在 長野県北安曇郡白馬村黒菱
 標高 約1500m
 建築 1961年 千賀可一氏設計
 電話 0231-72-6546



ら、いつのまにかみんなが一つになっていました。山荘には、そういう不思議な力がありました。たくさんの人たちの思い出を、そのまま残してくれている場所でした。一緒に行ったメンバーも、決して全員が良く知っている仲良しではなかったのに、確かにみんながひとつになっていました。暖かいぬくもりのある場所なのです。きつと、誰と行っても誰が行っても同じ気持ちをもてるのではないのでしょうか。

保母先生ありがとうございました
 保母先生は初任時から体育科の教員として一九八五年まで本校に勤務されました。その後富士高校で活躍後、昨年の三月で退職されました。退職後は武蔵野北高校で嘱託員として勤務されています。
 昨年十一月三十日に、黒菱山荘を通じて保母先生にお世話になった人々の声かけで、約四十名が新宿モノリスに集い、保母先生の退職をお祝いしました。山荘の古い仲間と久しぶりに顔を合わせ、予定の三時間はあっという間に過ぎてしまいました。保母先生も相変わらずお元気で、お話しをするとあの保母節が随所にあり、ふっと二十年前にタイムスリップしたように感じました。

白馬山麓・山のプチホテル

GROVE INN



石田 弘行(高校16回) 山岳部・山荘OB
 白馬村山案内人組合所属
 美和(高校22回・旧姓金井) ESS・山荘OG
 〒399-9301 長野県北安曇郡白馬村みそら野
 phone 0261-72-4325



新宿モノリスでの楽しいひとこま

同窓生からの お便り ・近況報告



七十才目前のフルマソン

田村典夫(中学二回)
同窓会校歌祭実行委員長



音楽を愛する者はスポーツを理解し、スポーツに打ち込む者はほとんど、音楽が好きである。これは何れも、リズムからくるものであろう。スポーツも動く芸術の一つである。私もその一人といえるかも知れない。旧制中学校の校歌祭に顔出ししたり、自宅ではステレオを。大学時代には陸上競技部と音楽部両方に在籍。私のメイジャーはフルマソン。オリンピック最終予選で何時も、あと二三人抜けばという、成り損ない人生であった。青梅マソン一般男子三〇クレースの部に、何回か続けて参加。本年は胃癌手術後十五ヶ月目の出走。辛うじて制限タイム内で滑り込みセーフ。タイムは自己最低。ゴールの快感は

同じである。ベストは尽くし、己をみつめた納得できるレースであった。終了後、体調も益々好調。レース後送られてきた記録集をふと見ている。参加者の年齢で私がトップ・六十九才。四ヶ月後の六月には七十才。早いものである。

人生は何事も充分なる注意は肝要だが、物事を恐れてはならぬという事を改めて教えられた現在である。中学時代の体力証検定二千メートルレースでは、何時も二位(タイムは上級)。トップにはなれぬ男より。

(現・東京陸上競技協会理事)

「きずな」に書せる

河野公一(高十四回)

入学した時が「ホース」で、卒業した時が「タコ」だったと言っても、べつに漫談のネタでもなく、私の在学中の担任であった星野先生と寺島先生のアドナですが、両先生とも未だご健在でしょうか。石神井を卒業し既に三十数年が経過し、その間の私の人生も実に波乱に満ちたものでした。大学卒業後入社した情報会社の初の海外出張で、最初の訪問地であった西ドイツ(一九六九年当時)のミュンヘンで、とあるクラブに立ち寄り、出張旅費として所持していた全財産の五〇〇ドルをすっかりむしり取られて、残りのスケジュールの諸経費は提携先の事務所を立て替えてもらい、這う這うの体で帰国した苦い経験。家を新築した直後の大阪転勤、また多数の犠牲者が出た阪神大震災の数ヶ月前に東京勤務に復帰と言った、実にめまぐるしい生活でした。最近では、トレーニングを終えて車で帰宅の途中、信号待ちで後方から物凄い勢いで追突され、しかも前方のタクシードも巻き込み、車は大破したものの軽いムチ打ちで命拾いをして現在に至っております。

仕事面では、月曜から金曜は翻訳会社の営業責任者として都内一円を動き回ってますし、週末はボランティアで小・中学生を対象とした「子供ト

ランポリン教室」の指導、コーチをしております。私自身も群馬県で開催された「全日本トランポリン・シャトル競技大会」に東京代表の一員として参加し、常勝の石川県チームを破り、決勝で栃木チームと接戦の末、惜しくも準優勝に終わりましたが、全国大会で表彰台に立てたことが、非常に印象的な出来事でした。石神井時代からクラブ活動(陸上競技部)で、私よりも体力的に恵まれていた、柿島、原、大沢といった同期生と競ったせいか、大病もせず今でも仕事に遊びに全力投球とはいきませんが、マイペースで挑んでおります。同期の皆さん連絡を。

日本ビジネス翻訳株

電話〇三(五五六一)三九〇一

近況報告

大泉珠子 旧姓・岩元 (高十回)

一九八一年現住所に居を定めた時、近所に「のはら文庫」と看板を掲げて、子ども達が入り出す小屋風の小さな家がありました。我が家の子供も行って本を借りて来ました。

聞くと、近所のお母さん達五、六人が不要の本を持ち寄り、貸し出しを始めたものでした。文庫を開いて三年目でした。その内資金集めのバザーに協力したり、土曜日の貸し出し係も担当するようになりました。八十四年三月、文庫活動の創設以来、中心となって活躍してきた方が、後を託して郊外へ移り住んでしまわれたのです。

我が家の子供たちは中高生となり、文庫へは顔も出さなくなっていたのですが、なぜか引き受ける羽目になったのです。八十五年からは「仙台手をつなぐ文庫の会」の運営委員としての仕事もしました。仕事というより、文庫の会で行う「子どもの本の勉強会」に出席したり、文庫間の交流会に参加、情報交換したりで六年間関わっていまし

た。

現在「のはら文庫」は、生協の集會室に本棚を置かせてもらい、毎週水曜日の午後二時から開いています。蔵書数は約千八百冊、内市民図書館から二百五十冊借用しています。図書館からは五百冊まで借りることができ、二ヶ月毎に図書館の書庫へ行き選書して、配本してもらいます。今も貸し出し係として、小さな子ども達と若いお母さん達に、喜ばれる良い本を手渡したいものと、頑張っていますが、後を引き継ぐ熱心なお母さんがあられて、嬉しい限りです。

今年一月、絵本作家のさとうわきこさんの講演を聞く機会がありました。『いそがしいよ』『すいかのたね』『どんどこおそつじ』『よもぎだん』『やまのぼり』『せんたくかあちゃん』等々。最後にくすくと笑える楽しい絵本を沢山描いています。

さとうさんは、岡谷市に「小さな絵本美術館」を夫君と運営しています。今秋、美術館ではスイスの絵本作家、フェリックス・ホフマンの原画展を開く予定で、スイスには何度か足を運んだとのこと。次回は六月に行くことになっている、ついでには、ツアーにご一緒しませんか? と呼び掛けがありました。

ホフマンはグリム童話の『おおかみと七ひきのこやぎ』『ねむりひめ』『ながいかみのラプンツェル』『七わのからす』等の絵本を描いています。またスイスアルプスの村を舞台に、子どもそのり大会や鈴行列のお祭りを描いたカリジェには『大雪』『ウルスリのすず』『フルリーナと山の鳥』等の絵本もあります。

彼等は絵本ばかりでなく、壁画やステンドグラスを残しています。

「スイスアルプスと絵本の旅」タイトルを見て、俄然こころ惹かれ、家族の了承を取り付けて、申し込みました。

今は、旅行案内のあちこちを開いて、フリータイムにどこの山麓ハイキングができるか? 早起

きして、どこを歩けば良いか? 想い巡らせては楽しい時間を過ごしています。

桜の季節「よせて」

伊藤まき子 (旧姓 嶋崎)

(高二十七回)

毎年、桜の花が咲く頃になると想い出すのは、卒業と入学という学校生活の季節。『高校生活』は特に思い出多き私の大切なアルバムの一ページ。高校を卒業して二十年以上経ちます。先日、三年間通い続けた学びの道を通る機会に恵まれました。まわりの風景は大きく変わり、年月の長さを感じます。母校を懐かしく思い、かつての学生生活が走馬燈のように私の臉に映し出されます。

私の娘もそろそろ高校生になる年頃になりました。友人のこと、先生のことなど、娘の話や機会が多くなりました。時代は変わっても同じ悩みを持つ一人の女性として成長していく娘に、「ドキン」とする今日この頃です。さて、今年も私も母親として娘の高校受験を体験する年になりました。家族全員で「喜怒哀楽」を楽しめる年にしたいものです。

「石吹」OB・OG集合せよ! 木村好一 (高二十四回)

同窓会誌上を拝借して「石吹」関係者のみなさんにご連絡します。「石吹」って何だ? どう読んだらいいんだ? ...同窓生のみなさんにはたいへん申し訳ありません。「石吹」は「いしぶき」と読んでください。「石吹」は「いしぶき」と読んでください。「石吹」は、伝統あるほかのクラブと比べれば、それほど長いものではありません。創部は、一九六八年です。初めのうちは、父母と教師の会の機関でした。一九八八年ころには部員数一〇〇名近くを擁し、石神井生の一割が「石吹」メンバーであった時

代もあるのです。質的にも量的にも、都立高校の吹奏楽部としては、ハイレベルの活動を続けてきました。学校内の行事はもちろんです。さまざまな学校外のイベントにも積極的に取り組んで、成果をあげました。石神井高校創立五〇周年にあたって、重責を果たしました。

しかしながら、いま「石吹」は、ちょっと危機的な状況にあるようです。わが国の少子化の波が、どのクラブにも影響を与えているのでしようが、「石吹」に押し寄せているようです。どのクラブでも同じかも知れませんが、メンバーの確保がたいへん困難なようです。ハーモニーをつくりあげるための最低限の編成をとることすらむずかしくなっているというのが現状のようです。歴代の顧問のご尽力などがあって、とても充実した楽器などの設備があるのに、それらを有効に機能させることができないと聞きます。メンバーのトレーニングについても、一時期ほどの系統性や合理性を見ることができないそうです。

「石吹」OB・OGのみなさん、ぜひ、母校へ足を運んでください。現役「石吹」メンバーに声をかけてあげてください。きたる五月三十一日(日)は石神井高校の体育祭が予定されています。いろいろ力を寄せあつて現役たちを応援しようではありませんか。

「石吹」OB・OGのみなさん、思い出起こしてください。応援団やマスコットなどの「団活」をガマンしてファンファーレや行進曲の練習をしたことを、体育祭部隊もカッコよかつたけれど、「石吹」もがんばりました。もし、「石吹」の吹奏楽の響きが聞こえなかつたら、体育祭は、きくと寂しいものになつていたにちがひありません。当面、現役「石吹」は、「ラプソディー行進曲」と「旧友」を演奏する予定です。

体育祭に参加できなかった人は、六月十三日(土)の同窓会に集まりましょう。具体的なプランがあるわけではないのですが、ひさびさに音を出すことができるかもしれません。体育祭にも同窓会に

も都合がつかなかった人は、なんとか時間をやり繰りして、「石吹」のなつかしい部室(音楽準備室)をのぞいてみようではありませんか。

可能な限り、また「石吹」メンバーとして音を出す機会を共有しようではありませんか。「校歌祭」というのもあり、参加団体のなかには、吹奏楽部が伴奏しているところもあるようです。企画・参加してみませんか。とにかく集合してください。

軟式テニス部OB会を!

から二十五周年、結成三十周年...。石神井に入学して今年二十五周年なんだと意外なところが気が付いた。そう、当時流行った音楽がLPジャケット仕様のCD企画で発売される等、あの頃のものさがさりげにブームになっているからだった。

石神井に入学した昭和四十八年は、石油ショック直前、アイドルブーム&フォークブーム。巨人はV9で相撲は輪島、映画の日本沈没が大ヒット。あれから二十五年の間に、レコードと8ミリはCDとVTRになった。ワープロやパソコン、今のコンピュータゲームの普及なんて誰も考えてなかつたろう。

さて現在。ビッグバンとか、私が身を置く放送界ではマルチメディアとか、世の中は便利を越えて慌ただしくなっている。しかも、人々が消化しきれずに、次々と飛び出してくるから、どこか不安で落ち着かない。だから不易と流行を見極めてやろうと思っている。

そんな日々の流れの中、ふと振り返ってみると石神井高校時代はVTRのように、時として音まで伴って蘇ってくる。高三の時に作ったバカな集団の仲間、横の繋がり、今でも自然と集まれるが、所属していた軟式テニス部(今はソフトテニスというらしい)の先輩+後輩という縦のラインのVTRはなかなか再生できなかった。

印象深い三年間を過ごせた私のような者を石神井は沢山輩出するらしい。ちょうど五年前、三十三回の中谷内君が、「OB会を復興させたい」と提案してきた。「まずは名簿を作ろう」と同窓会名簿に広告も載せて、当初は連絡もいたいたが、名簿作成の情報(連絡先)が増えないので、未だ総会に至っていない。同窓会名簿の広告に気づけなかった方もいるに違いない。改めて、軟式テニス部のOB・OGの方は是非とも暫定事務局の我々にご連絡を!

連絡先

- 千一五四 〇〇〇一 世田谷区池尻二の三三の一五
- の二〇四 中谷内雅之 (高三十三回)
- 千一七六 〇〇〇五 練馬区旭丘一の六四の二二
- (勤務先) TOKYO FM 〇三(三三三)〇〇八〇(横山茂 (高二十八回) まで

軟式テニス部以外の、これを見て、「おっ」と思ったアナタのご連絡もお待ちしています。あの日の風に吹かれて見たいと思うのは私だけではないでしょう。

横山 (自宅) 〇三(三九五三)〇三〇一

CLASSIC CATALOGUE

Classic Catalog は、演奏家が参加し創り上げる、クラシック専門のCDレーベルです。

Classic Catalog CD Shop は、世界中をターゲットにした、クラシック音楽のバーチャル(仮想)レコード店。インターネットだけでなく、カタログによる通販システムが利用できます

(CD Shop <http://www.jjs.co.jp/cc/shop>)

Classic Catalogレーベルは、極少数から作成できる、革新的なCD制作システムです。これまでは難しかった、稀少曲や長大なコンサートプログラムなどのリリースを可能にしました。多彩な制作形態を用意しております。ぜひ資料をご請求ください。

お問い合わせ:

03-5216-7346 F&F Classicカタログ部門

同期会報告 ・お知らせ

昨年から今年にかけて開催された、同期会・クラス会の報告と、これから予定している会のお知らせです。お問い合わせは、それぞれの期の幹事の方へ、直接お願いします。

中学四回、高校一回生

同期会幹事 宇野隆之(高一回)

同期会を開催

私も中学四回生(高校一回生)は十年ぶりに同期会を竹橋会館で昨年(一九九七年)五月二十七日に開催しました。当日は全体で百十名中四十五名出席で、大変賑やかな会になりました。

石神井高校創立五十周年の記念式典の報告や先生方の消息、名簿の発行の状況を報告の後、二時間ほど楽しく歓談しました。

考えてみると一九四八年三月の卒業以来、ほぼ五十年ぶりに初めて会う仲間もいて、名札を見なければ分からない状況もありました。我々は、一九四三年に中学へ入学、その後、中学一回(一九四四年)から学徒動員で、中島飛行機三鷹やシチズン時計田無へ行き、中学三年(一九四五年)で中島飛行機浅川へ移動の後、終戦、中学四年まで十分な教科書もない時代でした。入学時五組二百名は居た学生も、戦後の疎開で現在住所の分かっていない者百十名の状態です。数年前、社用で八王子の沖電気工業の工場へ行き、そこで聞いたところでは浅川(現在の高尾)の中島飛行機製作

所の我々が作業をしていた横穴防空壕がはとパスの觀光名所になっているとのこと。

今回は全体の同窓会名簿には載っていない友人の参加申し込みが数名あり、二・三年後には再度開催の要望が出るかも知れませんが、詳細は未定です。同期生の情報を是非お寄せください。

〒一六九〇〇
七五 新宿区高
田馬場四の二の二十九 宇野隆之



高校五回 昭和二十八年)

同期会を開催

庄司逸雄(高五回)

今年四月二十五日午後五時三十分過ぎ、都内某レストランに中年(初老?)の紳士、淑女十五名が集まった。

集まった者達は石神井高校第五期卒業の有志であった。頭の禿げた人、白髪が美しい人、会うなり一目で「おまえは、だろ」とか「あなたはxでしよう」とお互いに方を叩きあうものもあれば、名を名乗られてはじめて「ああそだったのか」と納得する者同士もいる。何しろ卒業してから四十五年たつたのだから無理もない。それでも、もの十分も経たないうちに各人はすっかり石神井のパンカラ

生徒と女学生になりきってしまっていた。汚れぼうだいに汚れた教室の壁にみんなでペンキを塗ってなんとか教室らしくしたと、壁の板をはがしてストーブで燃やして焼き

芋を焼いたこと、運動会でクラス全員参加の仮装行列で本部席の先生連中を驚かしたと、授業半分であとは軍歌や寮歌を存分に歌ってくださった先生のこと、水芭蕉の咲く尾瀬についてロマンチックに語られる先生のこと、武蔵関公園の池のほとりですべてに角いろいるな思い出話に花が咲き、それぞれが青春に立ち返って、時間の経つのも忘れて過ごした数時間であった。

やがて許された時間も過ぎ、「またきつと会おうよ」、「それまでみんな元気だよ」と言い交わしながら、手に手を取って固い握手をし、深夜の家に路についた。

この会は、決まったメンバーで決まった期間をおいて集まったというものではない。ただ、石神井高校を卒業して以来、社会に出た後も、お互いに年賀状を交わし合っていた者達が、「一度お互いに顔を会わせたいものだ」ということでそれが実ったというわけなのだ。だから次に何時会おうのか、いつ会えるのか、何も分かっていない。

「石神井」に学んだお互い同士が交わっていた年賀状が、「きずな」になっていただけは事実であった。



高校六回 昭和二十九年) 同期会

成富峯男(高六回)

昨年の会合から

平成九年度は、七月五日土曜日、西武新宿線下井草駅近くの「ビックスタジオ」七階のホールで開催し、恩師かなお先生を囲み五十名程が集まりました。この数年は毎年七月の第一土曜日に集まっており、今年も後で述べますように来る七月四日土曜日を予定しております。実は昨年は集合写真もスナップも撮りませんでしたので、ここに載せた写真は一昨年のもです。この時は寺島先生にもおいで頂きました。

今年の会合案内
本年平成十年は、先にも述べましたように、七月四日土曜日午後四時から七時まで開催の予定です。会場は、西武新宿線鷺宮駅北口から徒歩一分、三和銀行の角をまがって十メートルの「西方味市場」です。(所在：中野区鷺宮三の十八の九 電話：〇三(三三三〇)一五九)

同期の方々には、各クラスの幹事からご案内することになっておりますが、万一行き違いがあつてお手元に連絡がない場合には、成富(電話：〇三(三三三五)三三八三)までお問い合わせください。



同期会開催の予告 高校十六回生 (昭和三十九年卒) 集合!

平成六年十一月二十日吉祥寺で行われた前回の同期会から四年を迎えようとしています。

我々十六回生も卒業以来三十余年の月日が流れ、爺婆と言われても可笑しくない年齢となりつつあります。(現実に爺婆の方も「ちらほら」いらつしやるようです)

さて、前回の同期会の時に決定した通り、本年は第四回目の同期会を開催する年となりました。まだ場所や日時は決まっていませんが、前回同様多数の方のご出席を頂きたく、貴重な紙面をお借りして予めお知らせさせて頂きます。

前回は恩師のご出席も頂けて盛大な会を開くことができましたが、今回も又前回にも増した盛大な会が開催できればと考えます。懐かしい友と顔を合わせ、青春時代に戻って楽しい一時を過ごしたいものです。

できるだけ多くの方に出席頂きたく、住所の変わられた方、前回連絡の取れ無かつた方、そうした方を「ご存知の方は」一報いただければ幸いです。

尚、同期会の詳しい内容に付きましては、後日(九月頃)連絡させていただきます。

同期会幹事一同

連絡先 〒一六五 〇〇三三 東京都中野区若宮

二の二の二の六 吉澤 敏也

電話〇三(三八二一)二八三八(自宅)

〇三(三八三九)二五三八(会社・直)

FAX 〇三(三八三九)二五三八

高校十八回生 (昭和四十一年卒) 同期会開催に向けて

昨年、本誌上をお借りして高校十八回生の同窓会への参加を呼びかけましたところ、軟式テニス部のOB会からの合流組を含めて、三十数名の参加を得ることができました。

当日は、目印になるように高校十八回生のコーナーを設置してもらい、超豪華なビュッフェ、飲みきれないほどのドリンクを前に、飲み、食べ、石神井で過ごした青春の一時の思い出話に、近況報告にと、時間のたつのも忘れるほどでした。最後にはステージ横に同期生全員が並び、おそらく何十年ぶりかで歌う校歌の合唱の輪に加わりました。終了後も近くのレストランでの二次会でまたまた盛り上がった一日でした。



我々十八回生は、同期会というものを開いたことが無かつたと思いますが、「そろそろ同期会を開こう」という声も数多くありました。節目という意味では、二〇〇一年が卒業三十五周年に当たりますが、とりあえずは今年が「入学三十五周年」になりますので、是非多くの同期生に参加していただき、同期会開催に向けての第一歩としたいと思います。

高校十八回生の皆さん! 久しぶりに母校を訪ねてみませんか? そしてわずかな時間ですが、懐かしい青春時代へタイムスリップしてみませんか。

(高校十八回 鶴飼 明弘)

高校二十回 (昭和四十三年卒) 同期会開催のお知らせ

二十回生の皆さま!

早いもので、母校石神井高校を卒業し、三十年がたちました。オイルショック、バブルなど激動の日本社会を体験し、昨今の不況で厳しい世代ではあります。それは別にして、一同に集まって卒業三十周年を記念し全クラス参加により、下記の通り、同期会を開催いたしますので多数のご参加をお待ちしています。(写真は昨年の同窓会懇親会)



開催日時 平成十年七月五日(日) 午後0時三十分から

会場 九段会館(千代田区九段南一)の六の五
電話〇三(三三六)五五二二

会費 八千円程度

詳しいご案内は別途郵送します。

発起人代表 高橋一夫 〒一七六 〇〇〇二

練馬区桜台四の十一の二

電話・FAX 〇三(三九九)三五八六

高校二十一回 (昭和四十四年卒) 同期会便り

石神井二十一回生の皆さん、お元気ですか?

私、佐久間です。たまたま同期会の発起人になり、過去二回、会を開催いたしました。第一回は平成六年六月、吉祥寺にて約百三十名が集まり、盛大に行いました。二十五年ぶりという人がほとんど

興奮しているだけで、アツという間に時間が過ぎてしまいました。

担任の先生方も皆ご健在で、当日は六名の先生方が駆けつけてくださいました。

第二回は平成八年十月に行いました。少し余裕が出て、歌を歌ったり、ゲームをしたりと楽しい時を過ごせました。十名前後の方が、その都度準備に協力いただいております。準備の段階でワイワイやっている時から同期会は始まっているのです。

次回は西暦二千年、学校で開催する予定です。それまでに名簿も整備したいと考えています。不明者・転居者など情報がありましたらご連絡ください。また準備のお手伝いの出来る方も、「一報ください」。(写真は第二回の時のH組、I組と先生方)



練馬区石神井町六の二十七の十五
電話 〇三(三九九七)〇八五八(夜)
〇三(三九九三)四四三五(昼)
FAX 〇三(三九九三)四四三八

佐久間 利和

中学二回の高山さん、神恵内村長に七選

神恵内村長に

高山氏が7選

【要約】任期満了に伴う神恵内村長選挙は十七日告示、同日午後五時で立候補の届け出を締め切った結果、現職の高山新一氏(57)以外に届け出がない。同氏の無投票での七選が決まった。



高山 新一 無投票

TOPICS

神恵内村長に 高山氏が7選
【要約】任期満了に伴う神恵内村長選挙は十七日告示、同日午後五時で立候補の届け出を締め切った結果、現職の高山新一氏(57)以外に届け出がない。同氏の無投票での七選が決まった。

石神井 カップル ご紹介



私の結婚生活

岩田英鷹・愛子(旧姓三輪)
(高十三回)

“広い世間を見てからでも遅くはないのに”との忠告を無視して社会に出て間もなく待ち切れない気持ちで結婚、既に三十年が経とうとして



いる。相手は毎年組替えがあったにも拘わらず三年間同じクラスにいた彼女。世間では離婚が目立つ中でよくもったものだと思う。

この忠告をしてくれたのは同じ石神井高校卒業八期生の義兄の岸田卓也で、実はこの義兄も妻の姉(三輪葉子)と同級生同士の結婚をしており、実体験に基づいた親切な忠告を下さった訳である。

更に私の妹(酒井美智子、石神井卒十五期生)の次女(酒井幸子、同四十二期生)も同窓の泉章幸君(同三十八期生)と結婚、現在二人の子供がいる、不思議な巡り合わせである。

私の高校生活はテニスに明け暮れ、彼女は音楽室に入り浸り、三年間同じクラスに居ながらあまり接点がなかったが、卒業間際のグループ旅行がきっかけで交際が続き、結婚へと発展した。丸の内へ勤めるサラリーマンとしての生活は見た

目以上のハードな仕事ゆえに身の危険を感じ、会社を飛び出し、八ヶ岳山麓の原村ペンションを開業し、既に十八年になる。色々と屈折もありながら何とか続いている。あのままサラリーマン生活をしていけば妻はのんびりした生活ができたかも知れない。しかし私はある日ポツクリいつてしまってもいけない。ペンションを始めたばかりに、私は元氣になつたが、妻も子供も必死に働くはめに、妻にとつてはどちらの人生が良かったのか、まだ明快な答えは聞いていない。しかし、大自然の中での変化に富んだ毎日の生活、多勢の様々な人達との触れ合い、サラリーマンでは経験できない事も経験できたと思う。身体を持つ限り続けていきたいと思つている。

仕事に疲れ息抜きをしたい方、都会の喧噪からしばらく逃れたい方、家族と新しい経験をしたい方、是非一度いらして下さい。石神井の事、都会と地方の生活、等ゆつくりおしゃべりでも出来ればと思つます。

山荘と結婚カップルについての考察

道家正昭(高二十一回)

石神井生同士が結婚するケースは、同期の場合クラスが同じだった。一緒に石神井高校黒菱山荘(以下山荘という)に行った。先輩後輩の場合はクラブが同じだった。山荘に行ったら一緒になった。だいたいこのようなケースが多いと思われる。両者に共通しているのは山荘を媒介にしたケースである。

と言う訳で、山荘と石神井生の結婚についての考察してみることにする。山荘には夏は登山やハイキング、冬はスキーと卒業生がやってくる。新しい出会いが生まれる。

山荘の生活の基本は共同生活である。部屋は大部屋、食事の用意から調理、後片付け。山荘内の掃除はトイレまでやらねばならない。これは山荘に泊まる者の義務である。冬の間は吹雪などで小屋の外へ出られなくなり一日中小屋に閉じ込められることも

ある。夜は夜で酒をのみ一晩中語り明かすことになる。都会では考えられないほど親しい人間関係が生まれるのである。そここつするうちに出来は次の段階へ発展して行く。まあ、同じ釜の飯を食いと暮らせば同性ならば友情が、異性ならば愛情が生まれたとしても少しもおかしくない。

山荘で知り合い東京に帰り、お付き合いをしてもたくゴールインしたカップルは非常に多い。私の知っている同期だけでも両手で数え切れないほどの期が違えば星の数ほど(少し大袈裟だが)いるのではないだろうか。皆さんも周りを見回して下さい。必ず山荘を媒介にして結婚したカップルがいまから。特に結婚カップルの発生率が高いのが小屋番OBと小屋番OG、小屋番OBと泊りに来たOGが結婚したケースである。

ところが長い年月のうちに、夫婦の出会いが山荘であつたことを忘れている人もいる。石神井生の伴侶を持つあなた、もう一度出会いが何処だつたか思い出してみてください。

そもそも山荘は絶好の舞台装置である。昼は白馬三山が目の前にそびえ大自然の雄大な景色に大感動。夜は夜で夜空に満天の星が輝き、あたりは真っ暗闇。冬ならば小雪が舞つ白銀の世界。火花が打ちあがり、たいまつが燃えあがる。絵にも描けないロマンチック状況が出来上がるのである。(となりで酒のみ過ぎてゲーゲーやるオジヤマ虫も出現することもあるが)

我が同期のW君の場合は、奥さんとよく一つの寝袋に二人で入っていたものだった。先輩のHさんは、夜な夜な真っ暗にした小屋の中で怪談話が終わつてみると二人だけどこかへいなくなつたりして。スキー一級のO君は吹雪の中で手取り足取りスキーを教え今では奥さんの尻の下。山荘で超豪華なフルコース料理を作っていたKさんはすっかり旦那さんをつかまえた。

かくして、山荘は北アルプスの大自然とふれあつた場を作るとともに、多くの石神井生にとって人生の伴侶を見つける場を提供してきたのであつた。

石神井倶楽部で
Let's Have a Party!

土日祭日貸切可

懐かしい顔・楽しい語り
クラス会・同期会をサポートします
都内8店舗直営 城和裕(12期生)

☎03-3403-3461 レストランあおしま青山店
〒107港区北青山1-2-3(副都心) 都立大前

校歌祭に集え!

東京校歌祭へ集まれ

平成九年九月二十日秋晴れの、日比谷公会堂において、第五回東京校歌祭が開催されました。我が石神井高校同窓会は、同窓会長高橋 勇氏、校歌祭実行委員長田村典夫氏をはじめ、総勢二十六名の参加を得て、晴れのステージに臨みました。

母校紹介で、高校二十回の高橋が若干トチリ気味ではありましたが、校歌は練習の成果により、うまく行ったと思います。

この校歌祭は、年を追うごとに盛会となり、本年は二十三校(対前年二校増)の出演があり、また熱唱が続き、予定を一時間ほどオーバーして十八時頃成功裡に閉会となりました。

他校は、オーケストラやブラスバンドを動員するなど、多種多様、趣向をこらしてありました。一方本校は、動員数・演出面において、課題を残したと思っています。

本年も、東京校歌祭は十一月一日に開催が予定されており、多数ご参加いただき、「おお、石神井!」と歌ってみませんか。

文責・高橋一夫(高二十回)

お問い合わせ先

高20回 高橋一夫
03-3991-3586(自宅)
高27回 板谷方彦
03-5216-7346(会社)
歌に自信のない方も
大歓迎です。

東京校歌祭とは

東京校歌祭は、平成五年に旧制ナンバーズクール(府立一中、二中といった呼称)の校歌を歌う集いとして発足しました。本校は旧制府立十四中であり、校歌祭の実行委員会よりお誘いを受けて第三回より参加しています。現在は旧制の市立、私立中も加わり、昨年は全二十三校参

加で日比谷公会堂において盛況の内に幕が降ろされました。旧制中学という、破衣破帽のパンカラが売り物のように思われますが、この校歌祭は単に校歌を歌うだけでなく、各校ともブラスバンドの参加や応援歌の披露など、それぞれに趣向を凝らした楽しいイベントとして盛り上がりを見せています。同窓生のみならず、校歌祭に参加して石神井高校歌を高らかに歌いませんか?

越智税務会計事務所

税理士 越智文夫

〒一七一〇〇三三
豊島区南池袋三の六一の八
近代ブルービル5階
電話 03(39987)5301
FAX 03(39987)7889



昨年の第5回校歌祭・やっと20名を越えた参加者が集まりました!

石神井名物体育祭 応援団関係者 集合せよ!!

(校歌祭に向けてのアピール)

「泣けたぜ」
「力出し切った」
「つらかったけど、一番の思い出だった」
「これが石神井の体育祭だあ - 」

老若問わず
また、応援団経験者以外も大歓迎

人、それぞれの体育祭があったはずだ。若い力を出した。感動もあった。時代とともに各団の応援歌が生まれ、歌われた。その時、歌はまさに「こころ」であった。

あの頃を思い出して、応援歌を歌わないか!!
第一応援歌(自然の王者)を歌うチャンスがある。

三年前から、我が同窓会も東京都校歌祭に参加して来た。今年も、校歌の他に是非、第一応援歌(自然の王者)を歌いたい。

会場は日比谷公会堂だ。
日時は11月1日(日)だ。

友達に声をかけて集まれ。本番に備え事前練習も行う。

インターネットを開けばわかるようにしておくから、
ヨ・ロ・シ・ク



平成10年度事業計画案

会報「きずな」第47号をカラー印刷にします。
 全会員に配布する会報が、同窓会会員との唯一の「きずな」なので、一層の充実をはかる。
 総会後の懇親会を、本年も開催します。
 ひとりでも多くの参加がえられるよう、例年通り実行委員会で取り組んでいく。
 第6回「東京校歌祭」への参加
 多数の会員の参加を待っています。他校に遜色無く氣勢をあげてアピールしましょう。
 インターネットのホームページを充実させます。
 黒菱山荘の三者協議は継続します。
 同窓会名簿(1999年版)の発行準備に入ります。
 各期幹事さんに、会員住所の把握をお願いいたします。

平成10年度 会計予算案

1	収入の部	6,018,451
	繰越金	517,451
	入会金	1,500,000
	年会費	4,000,000
	雑収入	1,000
2	支出の部	6,018,451
	運営基金積立	0
	A. 総会費	900,000
	B. 本部費	300,000
	C. 幹部会費	200,000
	D. 広報費	1,400,000
	E. 発送費	2,000,000
	F. 行事費	250,000
	G. 山荘費	650,000
	H. 予備費	318,451
3	差引残高	0

会費納入のお願い

同窓会の運営は、会費によってまかなわれています。全会員への会報発送費だけでも200万円の予算を計上しています。会費納入の振込用紙を紛失などの場合もあるかと思えます。下記の方法で会費納入への格段のご協力をお願いいたします。「きずな」と同封の振込用紙で郵便局からお振り込みいただくと、お名前を書き込む必要がなく、振込手数料は同窓会負担になるので、最も簡単です。

同封の振込用紙を紛失された場合、下記の方法で会費をお振り込みください。

郵便局をご利用の方

(用紙は郵便局備え付けの青色を利用)

振替口座00170-6-50972

名義：東京都立石神井高校同窓会

銀行など金融機関をご利用の方

さくら銀行武蔵関支店 普通 6516437

名義：同窓会 高橋勇(ドウウカイ カンパム)

どちらの場合も、振込手数料をご負担ください。会費は年・2,000円です。

また整理の都合上、振り込み人のお名前のあとに、卒業期か卒業年を書いてください。

(例：花咲 太郎 高5、花咲 花子 30年卒)

定期総会開催のお知らせ

同窓会規約第9条の平成10年度定期総会を下記のとおり開催しますので、召集いたします。

平成10年4月吉日 同窓会会長 高橋 勇

記

日時：平成10年6月13日(土) 午後2時より

場所：母校会議室

議事：第一号議案 平成9年度事業報告

第二号議案 同 会計収支決算報告ならびに会計監査報告

第三号議案 平成10年度事業計画案

第四号議案 同 会計予算案

備考 役員は任期中なので、選任議案はありません。

総会終了後、恩師先生方にも加わっていただき、懇親会を持ちます。

平成9年度会計決算書 (平成9年4月1日～平成10年3月31日)

	予算	決算	増減	備考
1)収入の部	6,415,779	6,691,715	275,936	は予算より減
ア.繰越金	414,779	414,779	0	
イ.入会金	1,500,000	1,605,840	105,840	320人
ウ.年会費	4,500,000	4,452,910	47,090	2,264人
エ.雑収入	1,000	218,186	217,186	広告収入・寄付
2)支出の部	6,415,779	6,174,264	241,515	は支出増
運営基金積立	500,000	500,000	0	
A.総会費	900,000	985,530	85,530	懇親会助成
B.本部費	400,000	240,518	159,482	会議、庶務、慶弔
C.幹事会費	300,000	300,000	0	会議、懇親会助成
D.広報費	900,000	966,310	66,310	きずな46号編集印刷
E.発送費	2,000,000	1,837,185	162,815	納入用紙、郵送
F.行事費	300,000	244,121	55,879	東京校歌祭
G.山荘費	600,000	600,600	600	
H.予備費	515,779	500,000	15,779	運営基金積立
3)差引残額	0	517,451		次年度へ繰越

上記の通り、平成9年度の会計収支を決算して報告いたします。

平成10年4月8日

会計 川口 弘

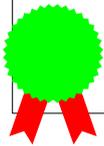
小野塚 直子

上記の会計決算を監査した結果、適正であることを認めます。

平成10年4月8日

会計監査 道家 正昭

濱崎 隆光



ご案内

同窓会の懇親会にお越しください!!

本年も、同窓会総会に引き続き、懇親会を母校石神井高校で開催します。今年も好評のビュッフェスタイル。より多くの同窓生の参加が、より会を盛り上げます。懐かしい顔を見に、お誘い合わせのうえご参加ください。

日時：平成10年(1998)6月13日(土)午後3時から5時
会場：母校・石神井高校の多目的ホール(当日案内を表示します。)
会費：1,000円(懇親会飲食費用として)

本年度同窓会会費(2,000円)を未納の方は、当日会場でお支払いいただけます。お釣りのないようにご用意ください



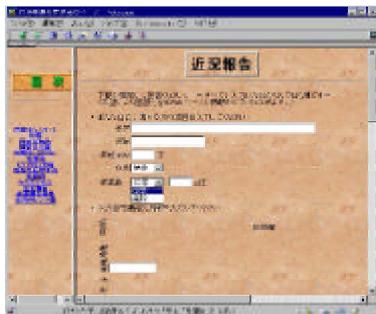
今年の企画内容

- ・各年代の恩師をご招待いたします。
- ・豪華ビュッフェと飲み物をふんだんに用意します。
- ・ピンゴゲームで盛りだくさんの賞品をご用意。
- ・校歌・応援歌を合唱(?)します。
- ・年代別テーブルを設定します。
- ・西暦2000年の母校60周年に向け、府立14中、石神井高の歴史を展示します。
- ・現在の母校の様子を紹介します。

盛りだくさんの企画もありますが、なんといっても主役は懐かしい顔、顔、顔です。
より多くの同窓生の参加をお待ちします!!!

石神井高校同窓会ホームページのご紹介

新URLは<http://www.shakujii-club.gr.jp>



期待ばかりが先走りしていた同窓会のホームページですが、本年度から自前サーバによる運用を開始します。データ容量に幾分余裕が出ましたので、同窓生の方々の情報発信のスペースとして、その一部を開放できる予定です。単に連絡を行うだけでなく、同窓会のWebページとしての企画やアイデアがありましたら、どしどしお寄せください。なお、ページの作成・保守は高瀬スナオさん(高32回)にお手伝いいただいております。

校歌や「きずな」バックナンバーの抄録、といったコンテンツに加えて、近況報告のフォームなども用意します。

なお、このコーナーでご紹介している「黒菱山荘委員会」などのホームページは、同窓会ホームページからリンクをしています。

個人ページを開設している同窓生の方も、URLナンバーをお寄せ頂ければリンクしますので、ご連絡をお待ちします。



吹奏楽部OBの「Club石吹」

石神井高関連ホームページ



「黒菱山荘委員会 HP」



OB有志「石神井高校 HP」



秋山さん(高20回)のリリース

連絡先 板谷 (amjack@st.rim.or.jp)
高瀬 (sunsun@ca.mbn.or.jp)

青春の石神井・パノラマ写真帖



昔より、道は広くなり歩道も出来ました。塀が引込んだわけです。以前は校門の中側にあった木が、門の外側になりました。

母校のグラウンドから。ひときわ目を引くのが新しい武道練習棟。屋上にプールがあります。 >>>



せっかくのカラーページだということで、何の写真にしたらいいか？という論議もあったのですが、結局一番同窓生が知りたがっているのは、かつての母校の姿ではないか？ということになり(安易!)写真を持ち寄りました。何十年も母校を訪れていない方は、きっとその変化に驚かれるでしょう。



<<< 懐かしの武蔵関駅南口の現在。40回生あたりからは、もっぱら北口を利用していた同窓生が多いかも。

オリンピックの女子滑降のスタート台から望んだ黒菱平。さて、懐かしの山荘はどれでしょう。 >>>



なんと言っても、“想い出の関公園”という方も多いはず。改修事で大分様子は変わりましたが、この眺めはあまり変わらないのではないのでしょうか。 >>>



名簿のデータについて
住所変更、異動の連絡は、ハガキまたは封書で母校住所の同窓会までお願いします。電話では処置できません。

名簿の打ち出しをします

同期会やクラス会を開催するときの案内状発送などに必要な名簿を、各期幹事の方にプリントアウトしてお渡しします。杉本(14回生)までご連絡ください。
〒167-0043
杉並区上荻2-40-4
電話 020-902-9088
または 03-3398-0686

編集後記

“うづ字が小さい”これが今年の第一印象ではないでしょうか。原稿の量と遅れに圧倒され、沈没しそうになりましたが、木村・鶴田のプロフェッショナルパワーの登場で、なんとか出口が見えてきました。“プロの編集者は、やっぱり違う”これが今回の感想です。(い)
今回編集の責任をまぬがれ、板谷編集長のお手伝いをお願いしましたが、却って足手まといになってしまいました。申し訳ありません。
年間を通じて、会員の方々の情報や消息を責任をもって集積できる体制が是非とも必要だと痛感します。(す)

編集スタッフ

- 板谷方彦 (二十七回)
- 杉本幹男 (十四回)
- 高橋一夫 (二十回)
- 勝見鈴代(旧姓別所)(二十回)
- 木村好一 (二十四回)
- 今井幸子(旧姓石黒)(二十七回)
- 鶴田洋子(旧姓高坂)(二十七回)
- カット 朝原麻美子(二十七回)

同窓会紙「きずな」第四十七号

平成十年五月発行

発行人 同窓会長 高橋 勇
発行所 都立石神井高校同窓会
東京都練馬区関町北

四の三十一の四十八

印刷所 03(3920)0831
株式会社文明社

東京都新宿区榎町七九番
03(3203)6617